

第9回 市民フリースピーチ制度 協議結果一覧

1	男性	<p>犬山市出身の偉人等の犬山市民への情報発信等について</p>
		<p>犬山市出身の「郷土の偉人」等を犬山市民へ情報発信するため、犬山市出身で犬山市史に掲載されている、「相馬半治翁」の書籍をまとめて市民の勉学に供することができるよう、犬山市立図書館内に予算を必要としない程度で「相馬文庫」を創設することを提案する。提案理由は、犬山市に昭和18年に自ら創立した財団から当時のお金で100万円を寄附し、その後平成2年に相馬氏のご子息からも3,000万円の寄附がされた。そこで犬山市育英基金の設立経緯などを研究したところ、明治時代の経済人「相馬半治翁」の業績が素晴らしいことが明らかになったため。</p>
		<p>(対応)長谷川議員、丸山議員、柴山議員で対応。 (対応先協議結果)今後、長谷川議員が対応。発言者が提案された「相馬文庫」の創設について図書館に確認したところ、難しいとの回答を得たため、別の方法で相馬半治氏の業績を犬山市民へ伝える方法を検討していく。</p>
2	男性	<p>レクリエーション活動の必要性</p>
		<p>レクリエーションは、人の心を元気にすることを目的としており、現在、教育・福祉・地域など様々な領域で、健康づくり、人々の繋がりを深める効果を上げている。学校教育の分野でも、体力づくりやコミュニケーション能力の向上に役立っている。そこで、本市の学校教育の分野で、スポーツ・レクリエーションの一つである「チャレンジ・ザ・ゲーム」を犬山市の学校現場で生かすことはできないかということ提案する。このチャレンジ・ザ・ゲームは、グループになって記録に挑戦するゲームで、基本的には自分たちの目標を定め、それにチャレンジし、自分たちが記録した結果が次の目標となる。対抗ゲームではないため、勝ち負けにこだわることなく楽しむことができ、記録を高めるには、みんなで協力することが必要となる。このように協調性を高めることができるチャレンジ・ザ・ゲームの学校での指導についてご検討いただきたい。すでに、子ども大学では実践済みである。</p>
		<p>(対応)民生文教委員会で協議する。 (対応先協議結果)委員会として、非常に良いものであると評価をしたため、校長会で紹介してもらうように教育委員会へ働きかけをする。</p>
3	女性	<p>在宅人工呼吸器装着者の災害時非常電源給付又は助成のお願い</p>
		<p>在宅で人工呼吸器を装着している方にとって、停電による医療機器の停止は、即、命に関わる。近年、台風などの災害が増え、実際に犬山市でも平成30年9月に15時間に渡る停電があった。その備えとして、発電機、予備バッテリー、蓄電池の購入が必要だが、高額であるため重い負担となり、今だ準備できない家庭もある。他市町では、様々な制度(地域支援事業 日常生活用具給付や障害者等人工呼吸器用非常電源給付事業等)があり、犬山市でも是非導入をお願いしたい。人工呼吸器装着者は、唾液や痰を吸引する機器等、電源をいくつも使用しており、内部バッテリーがあるものでも数時間で切れてしまい、停電直後に使用できなくなる機器もある。容量の大きい蓄電池の電気を維持するためには発電機が必要となり、総額で30万円前後になる。今現在は、準備できていない家庭がほとんどで、訪問先だけでも常時人工呼吸器を装着している方は4名、夜間のみ装着している方は3名いる。災害時、生死を分けるタイムリミットは72時間と言われ、停電直後から72時間電源確保ができることが重要である。いつ起こるか分からない災害に備え早急な対応が必要になるため、人を命を大切にす犬山市政として、災害時非常電源確保用として一人20～30万円程度の給付や助成の検討をお願いしたい。</p>
		<p>(対応)民生文教委員会で協議する。 (対応先協議結果)市内での利用状況や国や県の制度内容を確認・勉強していくため、担当課との意見交換を実施する。</p>

4	男性	<p>犬山市近郊の誘客装置（観光施設他）の集積に伴う東部丘陵地区の開発への提言</p>
		<p>コロナ禍後の再度の地方創生に鑑み、当市近郊に現在計画中の施設を含め、3～4年後には年間約2,000万人の集客が見込まれることから、城下町中心の観光から東部丘陵一帯の参加体験型誘客装置への転換を提言する。小牧ハイウェイオアシスが3年後にでき、集客数が800万人と言われているが、犬山市はどう対応していくのか。また、中央道、東名、名神、環状自動車道からの誘客を見込むと1,000万人を超える。とすると、小牧ハイウェイオアシス、土岐プレミアムアウトレット、湯の華アイランドを併せると1,500～2,000万人超えるだろうという気がする。今後、わずか600mの城下町中心の観光地で犬山市は生存していけるのか。そういう意味では、この東部丘陵地帯の開発こそ今手をつけるべきだと思う。キーワードは農業の「農」。農は私たちの命と健康を守る営みの基をすることであり、農業に参加体験するステージを作ることが新しい観光地となる。今こそ、東部丘陵の開発を皆さんの英知をもって取り上げていただきたい。</p>
		<p>（対応）建設経済委員会で協議する。 （対応先協議結果）東部丘陵の観光振興というご提案の趣旨には賛同する。 現在も、明治村、リトルワールド等のテーマパークや各種キャンプ場、入鹿池など自然遺産を活かした民間の観光施設が点在しているところであり、まずは現状をよく精査・把握した上で、不足している機能や課題を洗い出していきたい。また、新型コロナの感染状況を見定めた上で、当委員会の主催で今回の発言者をはじめ、委員会で選考した方々との意見交換会の開催を検討したい。</p>